



2024年 露地・雨よけぶどう 病害虫防除暦

JA 中野市営農センター
JA 中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ/10a)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
/	4月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	【特別散布】 展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml ラビキラー乳剤 500 ml	発芽前	2回	300	ブドウトラカミキリ	① 注意！発芽後の散布は薬害が発生するので散布時期を厳守する。 ② 訪花昆虫保護のため早朝散布を徹底する。
/	4月下旬 (発芽直前)	① 展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml パスポート顆粒水和剤 400 g	休眠期	1回	300	晩腐病 黒とう病	① 晩腐病密度抑制のため、発芽前に散布完了する。
/	5月初旬 カイガラムシ 特別対策	【樹幹塗布】 水 20 ml アルバリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで	塗布 1回	1樹当り 20-40 ml	コナカイガラムシ類 (クビアカスカシバ)	塗布方法 ① 水：アルバリン＝1：1で調合 ② 目安：直径10cm以上樹20ml、直径20cm以上樹40ml ③ 主幹分岐部下30～50cm程度、粗皮削りし塗布する。
※コウモリガ対策として「ガットサイドSの1.5倍(幼虫喰入期直前～喰入初期、2回)」を主幹部の地際から30cmの位置まで塗布する。							
/	5月上旬 展葉3枚頃	【特別散布】 展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml トレノックスフロアブル 100 ml	60日前	2回	300	晩腐病・べと病 黒とう病	
/	5月中旬 展葉6枚頃	② 展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml ダイアジノン水和剤 34 100 g オーソサイド水和剤 80 125 g	30日前 30日前	2回 3回	300	べと病・灰色かび病 晩腐病・黒とう病 クワコナカイガラムシ 若齢幼虫	① 今回防除から概ね10日間隔の散布を目安とする。
/	5月下旬 展葉9枚頃	③ 展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml ドーシャスフロアブル 50 ml	60日前	3回	300	べと病・晩腐病 黒とう病	① ツマグロアオカスミカメ対策：コルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用する。
/	5月下旬 展葉9枚頃	展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml ストマイ液剤 20 100 ml	満開予定日 14日前～ 開花始期	1回	300	無種子化	① 注意！有核巨峰には飛散しないようにする。 ② 満開予定日14日前は概ね展葉9枚目頃に該当する。遅れのないように早めに散布する。
/	6月初旬 展葉7～11枚頃	展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml フラスター液剤 ml	新梢展開葉 7～11枚時	2回	150	着粒増加 新梢伸長抑制	① 品種により倍率が異なるため、散布前に必ず登録内容(ラベル等)を確認する。種なし巨峰：1,000倍(10a当り300ℓ)、ナガノパープル500～800倍 ② 弱樹勢や若木等は新梢伸長が弱る可能性があるため、散布を控える。
/	6月上旬 開花直前	④ 展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml パレード15フロアブル 50 ml オーソサイド水和剤 80 125 g トクチオン水和剤 125 g	7日前 30日前 45日前	2回 3回 3回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病 黒とう病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 主幹害虫対策：主幹・主枝等にも薬液が到達するようにする。 ② アザミウマ類対策：花穂(軸部)に薬液が到達するようにする。
/	前回から 10日後 (落花直後)	⑤ グレーシアフロアブル 25 ml スイッチ顆粒水和剤 33 g ゾーバックエニベル顆粒水和剤 133 g	14日前 30日前 45日前	2回 2回 2回	400	べと病・晩腐病 灰色かび病 チャノキイロアザミウマ ブドウサビダニ (ミカンキイロアザミウマ) (コガネムシ類)	① 注意：ジマンダイセン・ゾーバック等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を2回までとする。 ② サビ防止対策：落花状況(花冠の飛び等)を確認して散布する。 ③ 果紛溶脱防止：展着剤は今回から特別散布(落花30日後)まで使用しない。 ④ グレーシアフロアブルに代えてコテツフロアブル2,000倍(60日前、2回)を使用してもよい。
/	前回から 10日後 (落花10日)	⑥ フェニックスフロアブル 25 ml トランスフォームフロアブル 50 ml ジマンダイセン水和剤 100 g 農薬汚れ対策：雨よけはジマンダイセン水和剤に代えて、 ホライズンドライフロアブルの2,500倍(21日前、3回)を散布する。	14日前 3日前 45日前	2回 3回 2回	400	べと病・晩腐病 黒とう病・褐斑病 スカシバ類 カイガラムシ類 (アザミウマ類)	① 注意：ジマンダイセン・ゾーバック等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を2回までとする。 ② トランスフォームフロアブルに代えてアドマイヤー顆粒水和剤10,000倍(21日前、2回)を使用してもよい。 ③ 農薬汚れ対策代替：ジマンダイセン水和剤に代えて、ホライズンドライフロアブル2,500倍(21日前、3回)を使用してもよい。
/	前回から 10日後 (落花20日)	⑦ レーバスフロアブル 50 ml アミスター10フロアブル 100 ml ディアナWDG 10 g	7日前 30日前 前日	3回 3回 2回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 アザミウマ類 クビアカスカシバ	
/	前回から 10日後 (落花30日)	【特別散布】 ライメイフロアブル 25 ml オンリーワンフロアブル 50 ml アーデントフロアブル 50 ml	14日前 前日 前日	3回 3回 4回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 ハダニ類 アザミウマ類	① 袋かけ直前の散布とする。 ② 晩腐病強化対策：オンリーワンフロアブルに代えて、ミギワ20フロアブル2,000倍(前日、3回)を使用してもよい。
/	7月下旬 (袋掛直後)	⑧ 展着剤 (アピオン-E) 50 ml アルバリン顆粒水溶剤 50 g ムッシュボルドーDF 200 g	前日 -	3回 -	400	べと病・さび病 チャノキイロアザミウマ ブドウトラカミキリ カメムシ類 コナカイガラムシ類	① ハダニ類 対策：コロマイト水和剤2,000倍(7日前、2回)を加用する。 ② クビアカスカシバ対策：パダン SG 水溶剤1,500倍(21日前、5回)を加用する。 ③ ムッシュボルドーDFを使用する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン100倍を加用する。
/	8月上旬 (前回から 10日後)	⑨ 展着剤 (アピオン-E) 50 ml IC ボルドー66D 2.5 kg テルスター水和剤 100 g	- 14日前	- 1回	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病 チャノキイロアザミウマ	① コガネムシ類対策：テルスター水和剤に代えて、イカズチWDGの1,500倍(21日前、5回)を使用する。ただし、早生種は収穫前規制に注意する。
/	8月中旬 (前回から 10日後)	⑩ 展着剤 (アピオン-E) 50 ml IC ボルドー66D 2.5 kg	-	-	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	① ICボルドー代替 ムッシュボルドーDFの500倍又はコサイド3000の2,000倍又は園芸ボルドーの500倍を使用してもよい。ただし、変更する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン100倍を加用する。
/	8月下旬 (前回から 10日後)	⑪ 展着剤 (アピオン-E) 50 ml IC ボルドー66D 2.5 kg	-	-	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	① ICボルドー代替：前項同様 ② 収穫中のナガノパープル等に飛散しないように注意する。
/	特別散布 収穫終了後	展着剤 (アピオン-E) 50 ml IC ボルドー66D 2.5 kg	-	-	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	

◆ 安全・安心の農産物生産のために使用基準を厳守しましょう。

当防除暦の複製・コピーを禁止します。

◆ 混用例：展着剤 ⇒ 液剤 ⇒ 乳剤 ⇒ 顆粒水溶剤 ⇒ 水溶剤 ⇒ フロアブル ⇒ ドライフロアブル (DF) ⇒ 顆粒水和剤 (WDG) ⇒ 水和剤